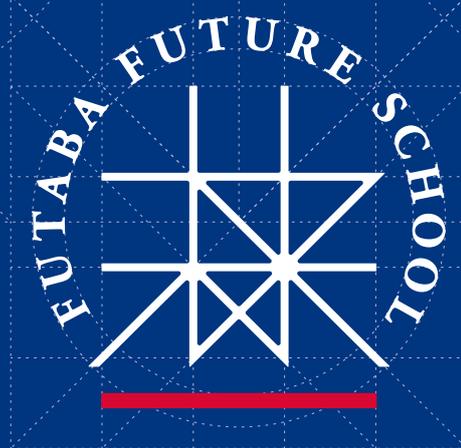
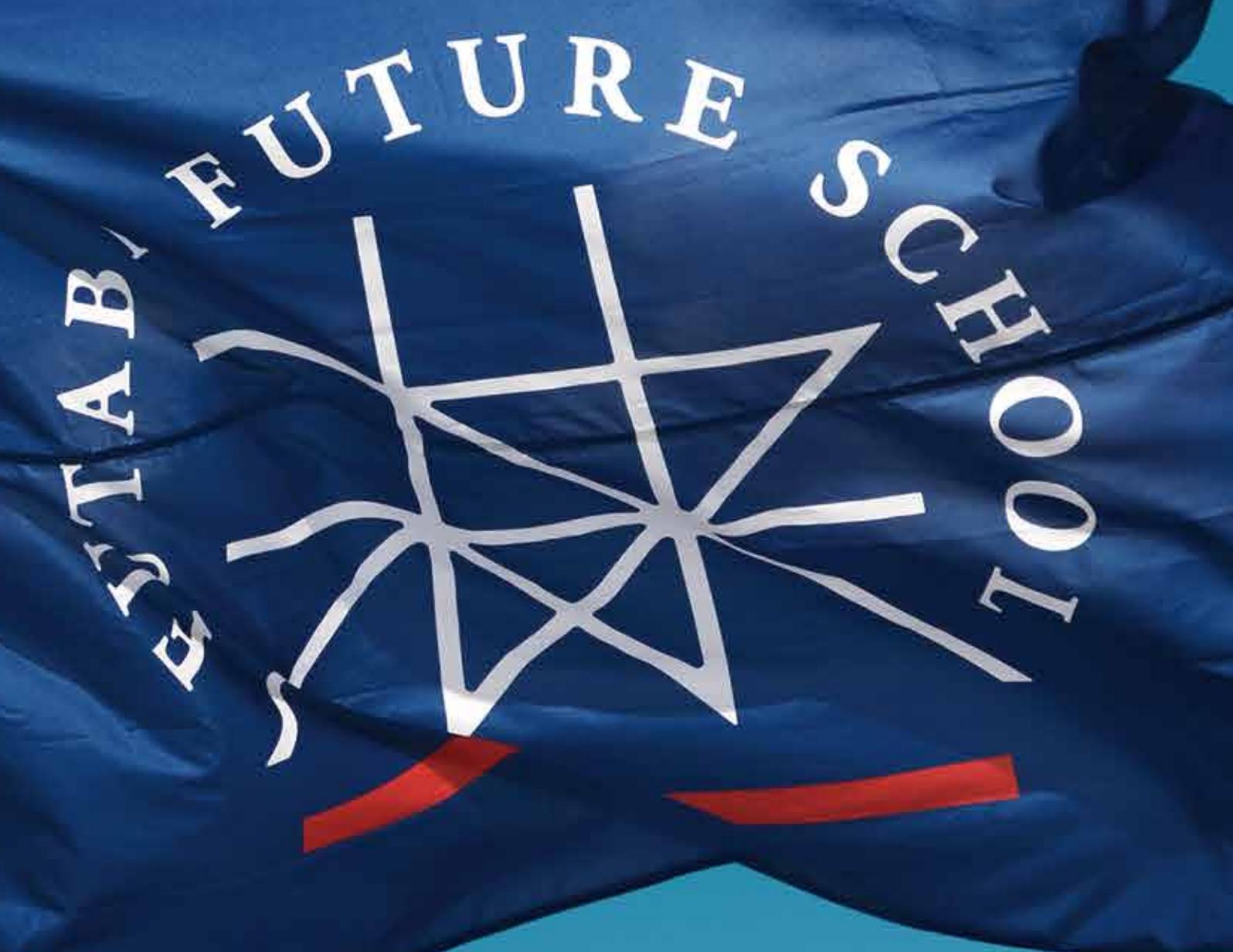


2025



オープンキャンパスのお知らせ(詳しくはWEBで)
〈一般〉令和7年7月26日(土)
〈スポーツ〉令和7年10月26日(日)※予定
たくさんの皆様のご来校を心からお待ちしています

福島県立 ふたば未来学園中学校・高等学校

A blue flag with a white geometric logo consisting of a square with internal lines forming a star-like pattern. The text 'ESTABLISHED FUTURE SCHOOL' is written in white capital letters around the logo. The flag is set against a teal background.

ESTABLISHED FUTURE SCHOOL

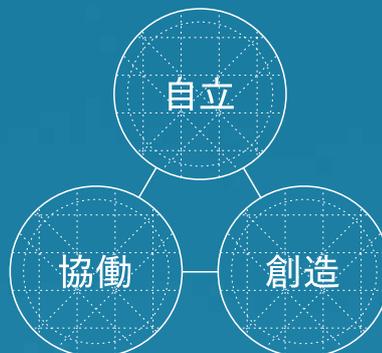
この国に
持続可能な社会づくりを進めるリーダーを
この地域に
グローバルに考え行動する人を
この人口減少時代に
新しいまちづくりを進めるアイデアを
これからの時代に
新たな産業を創出するイノベーターを
この社会に
多様性を尊重し、共生社会を実現する市民を

自分の頭で考え、人の痛みがわかり、
違いを乗り越え前例のないことに挑戦する
「変革者」を

この世界は待ち望んでいる

建学の精神「変革者たれ」

自らを変革し、地域を変革し、社会を変革する「変革者たれ」。この言葉をこの学校の建学の精神を表す言葉として、ここに刻もう。そして、私たちが変わるために、社会が変わるために、大切にすべき価値観や考え、変革のための理念は何か。それは、「自立」、「協働」、「創造」である。



目指す学校像

ふたば未来学園は

生徒が主体的に動く学校を目指す。答えのみつからないような難しい課題にぶつかっても、ひるまずに挑戦する生徒を支え、応援する。失敗や挫折が成長の糧となる。

現実社会の中で、コミュニティや世界と共に学ぶ学校を目指す。行動することで何かが変わる。

夢を開く窓がたくさんある学校を目指す。本物と出会い、本物から学び、新しい生き方を創造していく、一人一人の「未来」につながる学園だ。

特色ある4つの学び

1. 実践力をみがく「未来創造学」
2. 世界に飛び出す学び
3. 深い学び・高い学力
4. 未来の主人公となる学び

1 実践力をみがく「未来創造学」



ふたば未来学園のカリキュラムの特色は、
総合的な学習の時間「未来創造学（中学）」及び「未来創造探究（高校）」と
各教科の往還による深い学びの実現です。
各教科で学んだ知識を活用し、試行錯誤しながら、
現実社会での課題解決学習に取り組み、知識を実践力に高めます。

最先端のカリキュラム「未来創造学」

中学校では、身近な地域を学習フィールドにして福島の歴史・伝統・文化を学びつつ、地域の「ひと・もの・こと」とのかかわりを通じて、自らの生き方を探究します。また、再生可能エネルギーによるまちづくりや少子高齢化への対策などの福島が抱える課題に向き合い、未来の社会の姿を考えます。

高校ではさらに取組を発展させて、福島や世界の課題を解決するためのプロジェクトを、各自が企画して実践します。原子力防災・伝承探究や共生社会探究など6つの探究ゼミに分かれて地域課題の解決及び地域再生の実践を行い、国内外で研究成果を提言していきます。

国際機関や企業等と協働して、実際に社会を揺り動かす経験から、課題解決に向けて行動する力や創造性など、実社会で活躍するための実践力を身に付けます。

（中学生の実践例）

- 地域の方が「五社山おろし」と呼ぶ広野町に吹く季節風について、44年分もの膨大なアメダスデータなどから地域の気候・地形の特色を分析するとともに、文献調査やアンケートも行い、初めて科学的にその存在を実証した。
- 広野町における蛍の減少の原因について、過去のデータや研究論文を基に、水質汚濁や餌となるカワノオの減少、外灯のLEDライトの影響と考察し、町役場との意見交換を行い、蛍の復活と町民の安全の両立への提言を行った。



鈴木 寛

東京大学教授・慶応義塾大学教授
（元 文部科学副大臣）

ふたば未来学園高等学校の「未来創造探究」では、生徒たちが超高校級の大学生顔負けの実践に取り組んでいます。

ふたば未来学園は、日本一のアクティブ・ラーニングのリーディング高校として、2022年から全国の高校に本格導入される「総合的な探究の時間」「理数探究」のモデルとなる授業を展開して、日本の教育史に大きなインパクトを与えてくれると評価しています。同校の成功は新たな学力観の創生に極めて大きな影響を与えてくれると思います。

2

世界に飛び出す学び



グローバル・スタディ科による実践的英語力育成

通常の英語の授業に加えて、ネイティブの英語教員と世界の課題について議論をしたり、プレゼンテーションを行う独自の授業「グローバル・スタディ科」で、実践的な英語力を身に付けます。読む・書く・聞く・話すというすべての能力を伸ばすために、CLIL※を活用した授業を取り入れ、英語で地域のことや世界の課題などについて、データや事例を交えながら議論することができる力を育てていきます。

※CLIL(Content and Language Integrated Learning)は、内容(他教科等の学習内容)と言語(英語)の両方を学ぶ教育方法である「内容言語統合型学習」の略語。

海外研修での発信

実践的な英語力を身に付けるために、中学校段階から国内の様々な機関、施設等における研修を実施するとともに、海外からの来訪者を積極的に受け入れ、日常的な異文化コミュニケーションを通じて、グローバルな見方や考え方を育てていきます。

また中高を通じて複数回の海外研修の機会があります。中学校3年間の学びの集大成としてのニュージーランドへの研修旅行のほか、高校でもドイツの地球環境に優しいまちづくりの視察や、ニューヨークの国連本部で自分たちの学びについてプレゼンテーションを行うなど、世界を舞台に学びグローバルな課題に向き合い、解決する能力を育みます。



安藤 重実

外務省・総合外交政策局
国連企画調整課長

ふたば未来学園の生徒のみなさんが、新型コロナ禍により国連訪問が叶わぬ困難な状況の中でも、自らの発案で各国の留学生を福島に招待し、未曾有の大災害を共に学び、世界の諸課題と一緒に考えるツアーを実施されたことは素晴らしい取り組みだと思います。オンラインでの国連関係者との対話では多くの称賛のコメントが寄せられました。国際社会の直面する諸課題を、若い皆さんが世界各国の友人とともに「自分事」として考えることは問題解決へのとても大切な第一歩です。皆さんがよりよい未来を実現するために一層活躍されることを期待します。

ふたば未来学園中学校・高等学校は、県内で唯一、文部科学省から、「WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)コンソーシアム構築支援事業」の指定を受け、原子力災害からの復興を果たし、新たな地域社会を創造するグローバル・リーダーの育成に取り組んでいます。中高6年間を通じて、世界で活躍するために必要な実践的な英語力と国際的な視野を育てる取組を進めています。

各教科でのアクティブ・ラーニングの展開

各教科の授業も一方的に教わる講義形式にとどまらず、主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）の授業を展開します。例えば、地理的・歴史的事象を暗記するのみならず、データを分析・比較しながら自分たちで傾向をつかみ取る社会科の授業や、お互いに作問し解き合う数学科の授業などを通して、テストのための知識の暗記ではなく、様々な場面で知識を活用しながら深く思考できる力を育みます。

習熟度別学習

国語、数学、英語の授業では習熟度に応じた少人数指導を行います。基礎・基本の着実な定着を図るとともに、中高の教員が連携したチームティーチングにより発展的な学習を行うなど、個に応じた指導できめ細やかに学びをサポートします。

国語・数学での高い学力の育成

国語科及び数学科は、学習指導要領で示された一般の中学校の授業時数より多くの授業時数を設定し、高い学力を身に付けます。国語科においては、PISA型の読解力^{※1}を身に付けるとともに、数学科においては、数学的な見方・考え方を豊かにし、体系的に考える力を育成するなど、深い学びにつなげていきます。数学の発展的な学習を行うクラスでは高校の学習内容も一部先取りして学びます。^{※2} また、英語は一般の中学校で行われる「外国語」に加えて本校独自の授業「グローバル・スタディ科」を設定し、実践的英語力を育成します。

※1 PISA(ピザ)型読解力とは、OECDによる国際的な学習到達度調査「PISA調査」で評価されている観点です。読解力を、単なる「テキストの中の情報の取り出し」と捉えるのではなく、書かれた情報から推論して意味を理解する「テキストの解釈」、書かれた情報を自らの知識や経験に位置付け「熟考」評価する力など、読むだけでなく、テキストを利用したり、テキストに基づいて自分の意見を論じたりする力も含めた力を指します。 ※2 数学は習熟度に応じた弾力的なクラス編成を行い、中学3年生からは高校の内容も学習します。 ※3 上記のカリキュラムは、令和6年度の実績であり、今後変更になる可能性があります。

全ての教科の授業が知識を暗記するだけではなく、自分で探究し仲間と対話をしながら学ぶスタイルです。大学入試改革に対応するとともに、正解のない課題が山積みの社会で活躍できるように、知識を活用しながら考えて表現できる高い学力を身に付けます。

3 深い学び・高い学力



4

未来の主人公となる学び

シティズンシップ教育で、

身のまわりのことも社会のことも

人任せにせずに向き合い、

自ら考え動くことができる能動的な市民としての

主権者意識、市民性、人権感覚を育みます。

哲学対話

唯一の正解がなく、意見が分かれるようなテーマについて、ものごとの本質をつきつめていく哲学対話を通して、価値の多様性について学びます。

「友情と愛」、「生と死」、「権利と責任」のような日常生活に関連するテーマや地域課題に関するテーマについて、その本質を突き詰め、立場の違いによる対立から、お互いの立場への理解を深め、一致点を探る思考力を鍛えます。

リーダー学

地域や世界で活躍する各界の「変革者」の方々を定期的に講師としてお招きし、小グループに分かれての対話を通して、その方の志や生き方を学び、リーダーとしての資質を高めます。

演劇・コミュニケーション

世界各国の学校で取り入れられている演劇のワークショップを取り入れます。仲間と協働する活動や身体を使った表現活動、演劇における場面設定や心情の動きを体感する活動などを通して、創造力や表現力、コミュニケーション能力をみがくとともに、自己や他者への理解を深め、豊かな人間性を育成します。



平田 オリザ

劇作家・演出家、
芸術文化観光専門職大学学長

ふたば未来学園では、高校開校の当初から演劇的手法を使った授業のお手伝いをしてきました。演劇を使ったコミュニケーション教育は、単なる情操教育や表現教育とは異なり、異なる価値観を持った人とも共生していくための、文字通り21世紀を生き抜く力を養うものです。福島の置かれた状況を、国内外の人々に正確に、しかも共感を広げていく形で伝えていかなければならない福島の子どもたちに、必須の科目だと考えます。



最先端の「未来」の学び舎



① エデュケーショナル・コンコース

校門から入ると、そこは「エデュケーショナル・コンコース (EC C)」と呼ばれる街路をイメージした空間へ。地域にも開放し、左右に並ぶ木造建築の街並みへと導いていきます。通学路としてはもちろん、イベント広場など、アイデア次第で様々な表情を見せてくれることでしょう。



② 地域協働スペース「双葉みらいラボ」

学園の中心エリアとして、地域との交流や学習成果の発信などの場となっています。高校生が運営するカフェは一般にも開放され、学校図書館も隣接しています。地域、企業、NPOなどの多様な主体との対話や深い学び合いを通じて、自ら社会を変革していく舞台となっています。



③ 多目的ホール「みらいシアター」

みらいシアターには、ロールバックチェアスタンドによる座席を144席設置、大型のプロジェクターやスクリーン、照明、音響などの設備も充実。演劇や音楽会、講演会といった生徒の表現活動のメインとなる施設です。



④ アクティブ・ラーニング・スペース (ALS)

校内の至る所にALSは設置されています。壁面全体がホワイトボード、机一体型のイスにはキャスターが付いていて、気になった場すぐに移動することができ、いつでも議論や発表ができ、多様な活動が生まれる場となっています。



⑤ 体育施設

授業での活用はもちろん、高校のトップアスリート系列の活動を支える体育施設として、屋外には硬式野球場とサッカーグラウンド、屋内運動場としてアリーナ1とアリーナ2を整備しています。中学校のスポーツ選抜で入学してくるレスリングの練習場はアリーナ1の地階に、バドミントンはアリーナ2にコート10面を確保できる規模です。



寄宿舍「立志寮」「海風寮」

遠方から入学する生徒のために、寄宿舍「立志寮」「海風寮」があります。寄宿舍には学習室や談話室などのゆとりのある空間も設け、教員(寄宿舍指導員)や寄宿舍監督員が常駐し、きめ細やかなサポート体制を整えています。また、1階共有スペースにはwifi環境も完備しています。生徒主体での歓迎会やクリスマスパーティーなどの行事運営や、寮生活を自分たちで創り上げる自治活動を積極的に行っています。親元を離れて共同生活を送る6年間の経験を通して、人間性や協働する力を育みます。



充実したサポート体制

NPO 法人カタリバや大学生によるサポート

NPOカタリバの職員や数名の大学生が校内に常駐し、毎日夜まで放課後の学習室を運営しています。生徒たちにとって歳の近いお兄さん・お姉さんの立場で日々の悩みの相談にも応じ、きめ細かく学びを支えます。考査前には福島大学等の学生が泊まりがけで学習支援に来校します。



本校に常駐するNPOカタリバのスタッフ



放課後の学習室の風景

タブレット端末の活用

学校にwifiを完備するとともに、1人1台タブレット端末を貸与し、様々な場面でICTを日常的に活用した学習を行い、情報活用力を育成します。感染症対策の休校時には、オンライン朝の会や全生徒・全教科のオンライン授業を実施し、如何なる状況でも生徒とつながり、学びを支えるサポート体制を整えています。



タブレットを活用した授業

実社会の先駆者による多彩な授業

「前例なき環境には、前例なき教育を」をスローガンに各界の有志の方々が結成した「ふたばの教育復興応援団」や、大学、企業、NPOなどと連携し、実社会で活躍する第一人者による多彩な授業で、夢への窓をたくさん用意し、生徒の挑戦を後押しします。



応援団や大学教授等による多彩な授業

ふたばの教育復興応援団



秋元 康氏
(作詞家)



安藤 忠雄氏
(建築家)



伊藤 穰一氏
(ベンチャーキャピタリスト
元 MITメディアラボ所長)



乙武 洋匡氏
(作家)



小泉 進次郎氏
(元環境大臣・衆議院議員)



小宮山 宏氏
(三菱総合研究所理事長
東京大学第28代総長)



佐々木 宏氏
(クリエイティブディレクター)



潮田 玲子氏
(元バドミントン日本代表選手)



田嶋 幸三氏
(前日本サッカー協会会長)



為末 大氏
(Deportare Partners代表
アスリートソサエティ代表理事)



橋本 五郎氏
(読売新聞特別編集委員)



林 修氏
(東進ハイスクール・
東進衛星予備校現代文講師)



平田 オリザ氏
(劇作家・演出家
芸術文化観光専門大学学長)



宮田 亮平氏
(東京藝術大学名誉教授
第22代文化庁長官)



筋内 道彦氏
(クリエイティブディレクター
東京藝術大学教授)



山崎 直子氏
(宇宙飛行士)



和合 亮一氏
(詩人)



故 西田 敏行氏
(俳優)

学園生活

制服

ふたば未来学園中学校の制服は「ふたばの教育復興応援団」メンバーの秋元康さんのプロデュースのもと、茅野しのぶさんがデザインしました。スラックス・スカートは、高校と同じデザインで、男女の別なく着用できます。



高校制服

生徒会・学校行事

中学校生徒会を組織し、高校と連携して活動を行っています。スポーツ大会や双来祭(学園祭)は中高合同で実行委員会を組織し、主体的に運営しています。



双来祭(中高合同学園祭)

部活動

中学校の部活動は、一般選抜生を対象とした部活動と、スポーツ選抜生を対象とした部活動に分かれています。中高一貫校の特質を生かし、中高合同で活動することもあります。

【一般選抜生対象】

陸上競技 ソフトテニス
卓球 吹奏楽 美術
情報科学 特設ディベート

陸上競技 ソフトテニス バレー(女) 剣道 卓球
吹奏楽 社会起業 美術 演劇 バasketボール
情報科学同好会 ディベート同好会

【スポーツ選抜生対象】

バドミントン
レスリング

バドミントン
レスリング

野球 サッカー(男女)

※高校入試(実技有り)でトップアスリート系列に合格した生徒対象

中学部活動

高校部活動

真のアスリートの育成

双葉地区未来創造型リーダー育成構想※に基づき、バドミントン、レスリングでは指導力のある教員や外部指導者を配置するとともに、充実した練習環境や、アスリート食を提供する寄宿舎を整え、中高6年間を通じて世界に通用する競技力の育成に取り組んでいます。また、未来創造探究においてもスポーツを通じた地域活性化のプロジェクト実践に取り組むなど、スポーツを通して地域の復興や活性化に貢献していくレジリエンス(しなやかさ)を持つ、世界に通用する真のリーダーの育成を目指します。



※「真の国際人として社会をリードする人材の育成」を基本目標とする、関係団体(県、双葉郡各町村、日本サッカー協会等の競技団体、大学、JICA)の連携により平成18年度にスタートした人材育成プログラム

先進の学びで進路を切り開く

教育課程

高い学力を身に付けていくために、中学校段階から国語科及び数学科は、学習指導要領で示された一般の中学校の授業時数より多くの授業時数を設定し、あわせて実践的英語力を身に付けていくために本校独自の「グローバル・スタディ科(GS)」を設定します。中学校3年間における総授業時間数は、一般の中学校より245時間多い3290時間となります(令和7年度入学生より)。高校進学後の教育課程も中高一貫生については増単位を行い中高6年間を通じて高い学力を身に付けていきます。また、総合的な学習の時間「未来創造学」「未来創造探究」も一般の中学・高校より多くの時間を設定し、中高を通じて実社会での様々な活動を行い、実践力を身に付けます。

「週当たり授業時数(令和7年度入学生)」

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34
中1	国語(140)		社会(105)		数学(140)			理科(105)		音楽(45)	美術(45)	保健体育(105)		技術・家庭(70)		外国語(140)		道徳(35)	特活(35)	未来創造学(50+10)	GS(+35)	数学(+25)												
中2	国語(140)		社会(105)		数学(105)			理科(140)		音楽(35)	美術(35)	保健体育(105)		技術・家庭(70)		外国語(140)		道徳(35)	特活(35)	未来創造学(70)	GS(+35)	数学(+35)	中学総時間数 3290時間 (+245時間)											
中3	国語(105)		社会(140)		数学(140)			理科(140)		音楽(35)	美術(35)	保健体育(105)		技家(35)		外国語(140)		道徳(35)	特活(35)	未来創造学(70)	GS(+35)	数学(+35)	国語(+35)											
高一 一貫生	現代の国語	言語文化	歴史総合	数学Ⅰ	数学A	数学Ⅱ	物理基礎	生物基礎	英語コミュニケーションⅠ	論理・表現Ⅰ	体育	保健	家庭基礎	情報Ⅰ	音楽/美術/書道/演劇Ⅰ	地域創造と人間生活	未来創造探究	L	H	R														
高二 一貫生	論理国語	古典探究	地理総合	日本史探究/世界史探究	公共	数学Ⅱ	総合数学演習	数学B	英語コミュニケーションⅡ	グロブナル探究	英語コミュニケーションⅡ	論理・表現Ⅱ	体育	保健	未来創造探究	L	H	R																
高三 一貫生	論理国語	文学国語	古典探究	政治経済/倫理	世界史演習/日本史演習	総合数学演習	物理演習/生物演習	地学演習/化学演習	英語コミュニケーションⅢ	論理・表現Ⅲ	体育	情報Ⅱ	未来創造探究	L	H	R																		
高三 一貫生	論理国語	文学国語	古典探究	政治経済/倫理	世界史演習/日本史演習	総合数学演習	物理演習/生物演習	地学演習/化学演習	英語コミュニケーションⅢ	論理・表現Ⅲ	体育	情報Ⅱ	未来創造探究	L	H	R																		

※中学校教育課程のカッコ内の数字は年間授業時数の合計です。赤字の+表記が一般の中学校よりも多い授業時数を表し、中学校の時間割は、週当たり31時間(6校時×4日、7校時×1日)、3年生では週当たり32時間(6校時×3日、7校時×2日)となります。 ※「GS」は実践的英語力等を育成する本校独自の授業「グローバル・スタディ科」を表します。 ※スポーツ選抜で入学した生徒は、中学校の授業時数増の「GS」「国語」「数学」に代わり「スポーツ科」を実施し、授業内トレーニングに取り組みます。また、高校教育課程も上記とは異なり、授業内でもトレーニングに取り組みます。 ※上記高校教育課程はアカデミック系列一貫生文系・理系のモデル的な選択を示しています。高校では、自分の興味・関心や進路希望に応じて、3つの系列の中にある各科目群より、幅広い分野の選択科目を選択することができます。系列は、文系理系の上級学校へ進学するための主要5教科の発展的科目を学ぶ「アカデミック系列」のほか、「トップアスリート系列」「スペシャリスト系列」があります。

進路への接続イメージ

6年間の学びを通して、高い学力、実践的英語力も含めた様々なスキル、人間性を身に付け、海外大学や国公立・私立難関大学への進学を経て「変革者」として社会を牽引するリーダーを育成します。

特色ある4つの学び	中高での学び	想定する卒業後進路	“変革者”として活躍
深い学び・高い学力	<ul style="list-style-type: none"> 国語・数学の時数増と、習熟度別学習 中学から高校の内容を先取りして学び、演習を重ねて数学的思考力を育成 PISA型読解力や論理的思考力を育成 	一般受験に対応する高い学力 海外留学 超難関国公立大 医学部 難関私立大 など 総合型選抜・推薦入試に対応する深い思考力と表現力等	グローバルに考え、世界で活躍する人材
世界に飛び出す学び	<ul style="list-style-type: none"> GS科で実践的英語力を育成(中学で英検準2級、高校で2級以上) 複数回の海外研修でグローバルな視野と実践力を育成 		新たなビジョンを示し課題解決をけん引するリーダー
実践力をみがく「未来創造学」	現実社会での課題解決実践と自らの生き方の探究を通して、思考力、協働力、マネジメント力などを育成		新たな産業を創出するイノベーター
未来の主人公となる学び	本質を突き詰める哲学対話や演劇、リーダー学を通して創造性、表現力、コミュニケーション力、人間性、リーダーとしての資質能力を育成		地域で持続可能な社会づくりを進めるリーダー
			トップレベルで活躍するアスリート

【参考】大きく変わる大学入試

「大学入試センター試験」が「大学入学共通テスト」に変わり、記述式問題の導入や、英語の「話す」「書く」力の評価が加わるとともに、総合型選抜、推薦入試を含めた個別大学の選抜においても、高校時代に身に付けた力や活動実績などが多面的に評価される形になります。これによって、入試でも「知識・技能」のみならず、これからの時代を生き抜くために求められる、未知の状況にも対応出来る「思考力・判断力・表現力」や、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」なども問われることとなります。中学・高校の授業も、こうした力を育成していくために主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)の視点からの学び方の改善が求められています。

■生徒募集と入学者選抜について

募集区分	募集区域	定員内訳	募集定員
一般選抜	県内一円*	定員の 80%程度	60名 (1学年)
双葉郡枠	双葉郡8町村		
スポーツ選抜	全国	20%程度	

※募集要項の規定に基づいて県外からの出願が可能となることがあります。

入学者選抜の方法(予定)

一般選抜	適性検査	志願理由書
スポーツ選抜	実技審査 作文	面接 調査書

詳細は10月に公表する生徒募集要項にてお知らせします。

よくあるご質問

Q. ふたば未来学園中学校は一般の中学校とは何が違うのですか？

A. 県立高校に併設された県立中学校です。高校入試がない中高の6年間を有効に使い、全国的に注目されている先進的な学びを通して、高い学力と考える力や表現する力などの実践力を身に付けます。また中高合わせて約100名の豊富な教員に加え、ふたばの教育復興応援団や大学教授などの多彩な外部講師、常駐するNPO職員や大学生によって手厚く学びをサポートします。

Q. ふたば未来学園中学校から高等学校への入学はどのようになっていますか？

A. ふたば未来学園中学校からふたば未来学園高等学校へは、入学者選抜を受けずに進学できます。他の中学校からのふたば未来学園高等学校入学希望者には、これまで通り入学者選抜を行いますが、募集定員はふたば未来学園中学校の定員を除いた約100名となります。

Q. 学費・寮費は、どの程度かかりますか？

A. 入学科及び授業料については、中学校は無償で、高等学校は他の県立高等学校と同額です。このほか、諸費(給食費、教材費、修学旅行積立等)、寮費などが必要となる予定です。(参考)令和6年度寮費 約29,000円/月(中学)、約35,000円/月(高校)
※中学校寮費には給食以外の食事代が、高校寮費には3食の食事代が含まれます。

所在地

[学校] 福島県双葉郡広野町中央台一丁目6番地3

[寄宿舎] 立志寮 福島県双葉郡広野町大字下北迫字岩作67番地1

海風寮 福島県双葉郡広野町大字下浅見川字折返35番地1

[お問い合わせ] 福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校

Email: futabamiraigakuen-j@fcs.ed.jp TEL: 0240-23-6825

[学校ホームページ] <https://futabamiraigakuen-h.fcs.ed.jp/>

[詳しく知りたい方へ]

教育内容や日々の学校・寮生活の様子、選抜については、本校ホームページに掲載しています。



ふたば未来学園 検索



【通学時間の目安】
※記載の列車のダイヤは2024年3月改正のものです。

(※令和7年2月現在)